

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第85号（令和8年2月発行）

令和7年は、10、11月に第3回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

中川雅晶議員



主な質問項目
・ 協働防護による港湾の気候変動適応の推進について

- 令和7年4月23日に公布され、同年10月1日に施行された港湾法等の一部を改正する法律では海水面の上昇や高潮など気候変動に伴うリスクの増大に対応するため、官民が連携をして備えを強化する「協働防護」が新たに制度化された。四日市港として協働防護をどのように制度的に位置づけ「四日市港協働防護計画」を策定していく方針か。
- 協働防護を検討する枠組みとしては、港湾管理者が様々な関係者の声を聞き、適応水準・適応時期、必要となる事業等について関係者の合意形成を図っていくことを目的とした「協働防護協議会」を設置し、対象エリアにおいて施設を所有する民間企業関係者や所在市町などの官民が連携して、必要な協議をこれから実施していくこととなる。四日市港における具体的な対策については、今後「協働防護協議会」において、協働防護計画を検討していく中で、関係者間の合意形成を図りながら決定していく。対象エリアに立地する企業の皆様に対して、協働防護の概念、必要性や、官民一体となって関係者が一丸となって取り組むべき課題であるということを御理解いただき、十分にコミュニケーションを図りながら検討を進めてまいります。
- 四日市港における協働防護の実装は、港湾安全性と持続可能性を高めるだけでなく、産業基盤の強化、災害に強い港湾運営の実現に直結する極めて重要な取組だと考える。管理組合として、明確な方針と具体的な実装など、官民連携して推進していただくように強く要望したい。

芳野正英議員



主な質問項目
・ 四日市港港湾脱炭素化推進計画について
・ 水素・アンモニア等の社会実装について

- 「四日市コンビナートカーボンニュートラル化推進委員会」等での水素・アンモニア等に係る議論の現況と水素・アンモニア等の供給体制の整備をどう進めているのかについて聞きたい。
- 「四日市コンビナートカーボンニュートラル化推進委員会」における、水素・アンモニアの受入供給拠点化に向けたこれまでの検討では、管理組合も参画する議論の中で、既存設備の活用やパイプラインの敷設等により、将来的にコンビナート内で水素やアンモニアの供給を行うことが技術的に可能であることが一定程度確認できた一方で、コストや工期の課題が現れてきたところである。
管理組合としては、引き続き同委員会に参画し、水素・アンモニア等の受入供給の拠点化等に向け、港湾管理者の立場で必要な議論を行うとともに、カーボンニュートラルポートの形成に向け、定期的に「港湾脱炭素化推進協議会」を開催し、国や県・市の脱炭素化に係る取組の動向や脱炭素化に資する支援制度・新技術等について委員の皆様と情報共有を図ることに加え、「港湾脱炭素化推進計画」の進捗状況を確認し、適宜適切に計画の見直しを行っていきたい。
- まだ構想でもない段階であるので、しっかり議論しながら、また、なかなか港単体ではできない国家プロジェクトかなと思うので、知事、市長にも国に対しての要望活動をお願いし、ぜひ進めていただきたい。